

家康公金津へ申進散之事

一 去程に家康公に景徳叛逆の告を蒙り召寄長五年六月十一日大坂より駿府ありしに伏見に一日申逗留ありし島居彦左衛門尉内友次郎忠孝の尉松平主殿時松平五左衛門等にて仕立仕作ありし七月二日江戸の町城に入るる所あり公にも申評議あり義光も委細の所状をきき申同十九日秀右公奥州へ出發向あり退行ありしに家康公も申出馬あり同日甲州小山に申陣あり此扱あり水戸城主佐竹右京大進義宣より崎田治兵衛を以て申使者として今夜金津に進散の先陣被致

ある由仰せられたるに義宣申してよく我全く家康公討て参らねばとて大坂に内室を留置されし故金津先忍に貴命に任せかこき旨申返すや此は家康公の申す所なり則水戸表を大坂に押へしに父子金津へ申進散を景徳退散の申評定一決此所に石田三成の叛逆関西の諸大名一味いたし既に伏見大津の城取知るの由七月廿日小山へ御来を諸方の早馬櫓のをも引如し依之金津表大坂宰相政宗山形少将義光公仰せられ結城軍相秀康と小山に陣し是より家康公秀右公同十八日小山